


プログラム名	ゴールに向かってプカプカリン						
対象年齢	年長 (5~6歳)						
ねらい	メッセージ	・山から湖(琵琶湖)までの川の流れ(つながり)に気づこう					
	発見・体感 できること	・川の流れの強さ、速さ、方向 ・川の水温 ・川の危険性 ・川の中の砂や石の動き					
参加者のめやす	幼児	6人×3グループ	/	支援者	4人~		
実施時間	30分						
フィールド							
	森・社寺林・公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園	
実施可能時期							
自然を感じるためのヒント							
時間	活動			配慮・アドバイス アレンジ			
準備				<p>子どもが入っても差し支えない川で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水深は、子どもの長靴が水浸しにならない程度(10cm程度)を目安としましょう。</li> <li>三面張りの川底はすべりやすいので避けましょう。</li> </ul> <p>水難事故の危険性を伝え、川の中での活動のルールをしっかりと確認しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>決められた範囲や時間内でのみ活動する</li> <li>すべらないように足下に注意する</li> <li>川の中では絶対に走らないようにする 等</li> </ul>			
5分	川岸から川の中の様子を覗いてみる			<p>川底の砂や小石が動いている(流されている)様子を見せて、川の運搬作用についても伝えるとよいでしょう。</p> <p>(例)覗きめがね(箱めがね)があると水中の観察がしやすくなります。</p>			
20分 ( , )	<p>グループ順に川の中に入る 子ども：1グループが川上の指定の場所に立つ 支援者：川下で待ち受ける</p> <p>空のペットボトルを川に流し、川下で待ち受ける支援者の足の間に何本通せるか競争する。(支援者は審判も兼ねる)</p>			<p>子どもたちがペットボトルを安全に拾える状況が必ず確認し、無理な場合は支援者が拾います。</p> <p>ロープや杭を用意し、その間を通すようにしてもよいでしょう。</p> <p>子どもたち自身があらかじめ流すものを作っておくのもよいでしょう。</p>			

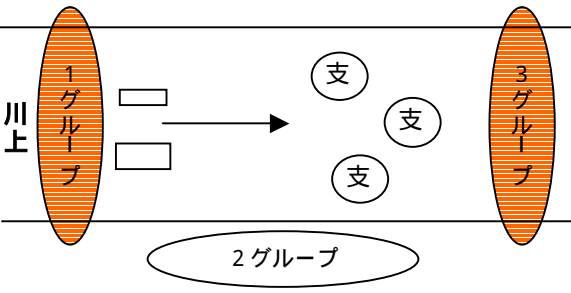
時間	活動	配慮・アドバイス アレンジ
----	----	---------------



5分 川の流れ方(速さや強さ、どこからどこへ向かって流れているか)や、浮いているごみなどについて、感じたことを話し合う

 「ゴールに向かってプカプカリン」(3グループ対抗)の遊び方

ペットボトルなどを流し、支援者の足の間等にいくつ通せるかを競います。



1グループ：川上からペットボトルを流す  
2グループ：岸で待機し、流れの様子を観察  
3グループ：川下でペットボトルを回収

**【異年齢への対応】**

年少・年中：川の中を歩いてみるだけでも、川の流れや水温などを体感することができます。電車ごっこの要領で、向こう岸に渡ってみるのもよいでしょう。

**【園や家庭へ帰ってから】**

川をたどって琵琶湖に行ってみましょう。

水の種類(真水・潮水など)、形状(水・氷・湯気など)、季節によっての変化について考えてみましょう。

家で使う水は、どこから来て、どこへ流れていくのか、みんなで話し合ってみましょう。

**準備物・教材等**

- ・ペットボトル(大小様々なものを用意し、ビニールテープ等でチームごとに色分けする)、カラーボールなど水に浮くもの
- ・覗きめがね=箱めがね  
...水面上から水中を観察するための箱形の眼鏡。箱の底の部分がガラスまたは凸レンズになっているもの

